

---

---

# 日本科学哲学会 第46回(2013年)大会

期日：11月23日(土)・24日(日)

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス

大会参加費：1,000円(非会員の方でもご参加いただけます)

所在地：〒102-8160 東京都千代田区富士見2丁目17番地1号

交通案内：

総武線：市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分

都営新宿線：市ヶ谷駅下車徒歩10分

東京メトロ有楽町線：市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分

東京メトロ東西線：飯田橋駅下車徒歩10分

東京メトロ南北線：市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分

都営大江戸線：飯田橋駅下車徒歩10分

---

---

## 11月23日(土)

研究発表 (10:00-12:00) (C会場のみ 10:30-12:00)

《A会場(S405教室)》司会：1-2 鈴木真(南山大学)、3-4 横山幹子(筑波大学)

1. 村上祐子(東北大学)・・・サイエンス・コミュニケーションにおける論理性
2. 高村夏輝(自由学園)・・・「3.11以降」の科学技術論について
3. 犬飼渉(東京大学)・・・ロールズの合理的選択理論における確率と選好について
4. 鈴木真(南山大学)・・・福利(Well-Being)に関する哲学的懸念と心理学における主観的福利研究

《B会場(S406教室)》司会：1-2 西村正秀(滋賀大学)、3-4 村上祐子(東北大学)

1. 横山幹子(筑波大学)・・・否定的認識的性質による幻覚の説明
2. 小川雄(同志社大学)・・・カルナップの『世界の論理的構築』における「間主観性」
3. 佐藤有理(東京大学・日本学術振興会)・峯島宏次(慶應義塾大学・専修大学)  
・・・図による論理推論と認知
4. 西村正秀(滋賀大学)・・・指示詞的概念の形成と概念主義

《C会場(S407教室)》司会：1-3 飯田隆(日本大学)

1. 三富照久(中央大学)・・・科学革命は知識革命か？～大出晃説の検討～
2. 鈴木秀憲(名古屋大学)・・・科学の偶然性と現実的制約
3. 杉尾一(慶應義塾大学・日本学術振興会)・・・物理学の認識論的転回は可能か

理事会・評議員会・大会実行委員会 (12:00-13:30)

総会 (13:30-14:10 総会后、石本賞授与式を行います)

会場：S406教室

シンポジウム (14:15-16:45)

「精神医学の哲学：精神疾患概念の再検討に向けて」

オーガナイザー・提題者：石原孝二(東京大学)

提題者：信原幸弘(東京大学)、糸川昌成(東京都医学総合研究所)、鈴木晃仁(慶應義塾大学)

会場：S405教室

## 特別講演 (16:55-17:55)

講演者 : 長田 敏行 (法政大学)  
講演題目: サステイナビリティにより覚醒された科学哲学への関心  
司会 : 戸田山 和久 (名古屋大学)  
会場 : S405 教室

## 懇親会 (18:00-20:00)

会費: 一般 5,000 円 学生もしくは求職中の研究者 3,000 円  
会場: 富士見坂地下食堂

# 11月24日(日)

## 研究発表 (10:30-12:00) (B会場のみ 10:00-12:00)

《A会場 (F309 教室)》 司会: 古田 智久 (日本大学)

1. 野村 尚新 (北陸先端科学技術大学院大学・日本学術振興会) ・・志向性の論理による W. V. Quine の存在論的コミットメントの再考
2. 小山 虎 (大阪大学) ・・・・・時間論上の存在論的対立に適したメタ存在論
3. 石田 知子 (慶應義塾大学) ・・・・・対象実在論を再評価する — 自然主義的観点から —

《B会場 (F101 教室)》 司会: 松阪 陽一 (首都大学東京)

1. 森 永 豊 (東京大学) ・・・・・態度報告文における de se / de re 様態の区別
2. 上田 知夫 (ジャン・ニコ研究所) ・・・・・固有名の不透明な現れと意味論的なふり
3. 井澤 清一 (岩手県立大学) ・・・・・帰属者 / 所持者の区別によるウィトゲンシュタインアスペクト論の分析
4. 水本 正晴 (JAIST) ・前田 高弘 ・・・・・ゾンビ、概念、形而上学

《C会場 (F310 教室)》 司会: 松本 俊吉 (東海大学)

1. 網谷 祐一 (東京農業大学) ・・・・・種についてのプロトタイプの思考と種問題
2. 吉田 善哉 (京都大学) ・・・・・多様性の回復としての eco-evo-devo
3. 古谷 公彦 ((財)大島社会・文化研究所) ・・・・・「決定論と自由」問題の“解決”と情報の存在論(?)への道

《D会場 (F311 教室)》 司会: 金子 洋之 (専修大学)

1. 細川 雄一郎 (首都大学東京) ・・・・・双模倣と様相論理
2. 三好 博之 (京都産業大学) ・・・・・数学のユニヴァーセントな基礎付けについて
3. 鈴木 聡 (東京大学) ・・・・・認識様相・質的確率・超準確率

## 理事会・編集委員会・大会実行委員会 (12:00-13:00)

## 研究発表 (13:15-14:45)

《A会場 (F309 教室)》 司会: 岡本 賢吾 (首都大学東京)

1. 市瀬 規善 ・・・・・なぜ私(自己の意識)があると思うのか  
～私(自己の意識)のモデルについて、情報処理的アプローチ～
2. 福田 敦史 (慶應義塾大学) ・・・・・自我であることと人格であることとの関係について
3. 笠木 雅史 (大阪大学) ・Carrie Ichikawa Jenkins (University of British Columbia)  
・・・・・アプリアリ・アポストリアリ区分の再検討  
(Re-articulating the A Priori-A Posteriori Distinction)

《B会場 (F101 教室)》 司会: 丹治 信春 (日本大学)

1. 島村 修平 (埼玉大学・ピッツバーグ大学) ・・・・・透明性を超えて: いかにして自分自身の欲求を知るか
2. 西堤 優 (東京大学) ・・・・・自己制御の喪失と二つのモデル
3. 鈴木 雄大 (東京大学) ・・・・・行為の理由に関する反心理主義の検討

《C会場 (F310 教室)》 司会：出口 康夫 (京都大学)

1. 木下 頌子 (慶應義塾大学) . . . . . デイヴィドソンの外在主義における「緊張」について
2. 新川 拓哉 (北海道大学・日本学術振興会) . . . . . Eliminativism of the phenomenology of hallucination
3. Georgieva Iva (東京大学) . . . . . The problem of stigmatization in treatment of soldiers and the cybertherapy as a treatment method for war-related PTSD

《D会場 (F311 教室)》 司会：三浦 俊彦 (和洋女子大学)

1. 太田 陽 (名古屋大学) . . . . . 哲学的美学と経験的美学
2. 西條 玲奈 . . . . . そこに『マクベス』はありますか— 反復可能な芸術作品の唯名論的理解に向けて
3. 北村 哲紀 (首都大学東京) . . . . . 時間論理における内的観点

ワークショップ (15:00-17:15)

《A会場 (F309 教室)》

I. 徳倫理学の自然化

オーガナイザ：立花 幸司 (熊本大学)

提題者：壁谷 彰慶 (千葉大学)、河田 健太郎 (武蔵野大学)、高橋 久一郎 (千葉大学)

《B会場 (F101 教室)》

II. 証明論的意味論の最前線

オーガナイザ：矢田部 俊介 (JR 西日本・京都大学)

提題者：大西 琢朗 (JSPS・首都大学東京)、黒川 英徳 (神戸大学)

---

---

『科学哲学』バックナンバー

4 (1971年)	24 異文化理解の基礎	38-1 (2005年)
5 (1972年)	28 カオスをめぐって	38-2 フレーゲの現代性
6 (1973年)	29 特集1 デュエムの科学哲学の現代的意義	39-1 (2006年)
7 記号・情報・論理	特集2 サイバネティクス	39-2 相対性理論 100年
8 行為の理論	30 近代における科学と哲学	40-1 (2007年)
9 様相論理学	31-1 (1998年)	40-2 数学の論理と哲学
10 心身問題と道徳	31-2 生物学的説明	41-1 (2008年)
11 解釈とモデル	32-1 (1999年)	41-2 非合理性とは何か
12 言語と非言語	32-2 医療の哲学に向けて	42-1 (2009年)
13 社会科学と哲学の間	33-1 (2000年)	42-2 脳科学と社会
14 論理とは何か	33-2 心・生命・コンピュータ	43-1 (2010年)
15 科学哲学の展望	34-1 (2001年)	43-2 科学コミュニケーション
17 合理性とは何か	34-2 進化論から見た心と社会	44-1 (2011年)
18 志向性について	35-1 (2002年)	44-2 ロボット工学と哲学
19 言語理解	35-2 クワインの哲学—回顧と展望	45-1 (2012年)
20 意識・機械・自然	36-1 (2003年)	45-2 論理と確率
21 〈私〉の同一性	36-2 ラッセルのパラドックス・100年	46-1 (2013年)
22 科学と反—実在論	37-1 (2004年)	
23 科学哲学の未来を問う	37-2 時間の実在性	

購入を希望される方は、事務局までご連絡ください (1～3、16、25～27号は在庫切れです)。

下記のアドレスからインターネット上で公開されているバックナンバーが閲覧できます。

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jpsj-char/ja>

---

---

●入会を希望される方は日本科学哲学会事務局までご連絡ください。

所在地：〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40 日本大学文理学部哲学研究室内

FAX：03-5317-9217

e-mail：philsci@chs.nihon-u.ac.jp